

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2570100459
法人名	有限会社 かねだ
事業所名	南郷グループホームほたる
訪問調査日	平成 22年 7月 28日
評価確定日	平成 22年 8月 19日
評価機関名	社団法人 滋賀県社会福祉士会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2570100459
法人名	有限会社 かねだ
事業所名	南郷グループホームほたる
所在地	滋賀県大津市南郷1丁目7-21 (電話) 077-534-5508
評価機関名	(社)滋賀県社会福祉士会
所在地	滋賀県野洲市富波乙681-55
訪問調査日	平成22年7月28日

【情報提供票より】平成22年7月15日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 6月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	12 人 常勤 8人、非常勤 3人、常勤換算 10.04人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての、1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000~66,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費15,000 円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(240,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	50 X 2 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1		名	要介護2	4	名
要介護3	8	名	要介護4	4	名
要介護5	1	名	要支援2		名
年齢	平均 88.2 歳	最低	77 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	金田医院。 なむら歯科、 瀬田川病院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域医療を目指していた金田医院が、介護、介護者在宅介護への支援の必要性と認知症ケアの困難さを感じ、病院の隣に設立したグループホームである。地域医療と地域在宅介護を連動させ、地域の特性を生かしたグループホームとなっている。グループホームはスーパー、銀行、郵便局等に徒歩で行くことができ、周りは四季折々の豊かな自然に触れられる、生活に便利で自然に恵まれた環境の住宅街の中にある。職員の異動はほとんどなく、ユニット間の異動も行わず、馴染みの関係を大切にしている。個別ケアを目指して丁寧にアセスメントを行ない、日々の気づきを記録し、それらをもとに介護計画を立てて支援している。月一回のミーティングでは職員全員で介護計画の評価を実施し、具体性のある介護計画を作成し、日々の暮らしを支援している。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題は「同業者との交流を通じた向上」と「災害対策」であった。同業者との交流については、職員が個別で交流をしているが、グループホームとして積極的に地域の同業者に働きかけ、ネットワークづくりに取り組むことで地域サービスの質のさらなる向上を目指してほしい。災害対策は夜間を想定した訓練を消防署指導のもと実施しているが、地域住民、地域の自衛消防などと連携を図り、避難、および避難後の見守り等の具体的な協力体制を築いてほしい。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で自己評価をして、ユニットごとにミーティングで検討してまとめ上げた。職員全員で検討することにより、課題が明らかになり、具体的な改善に取り組んでいる。</p>
	<p>重点項目②</p> <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、主に認知症の症状についての説明、質問、介護の問題点が話されている。前年度の運営推進会議で出た認知症の出前講座依頼が引き続き実施され、地域への認知症の啓発に努めている。会議の内容はミーティング時に報告、話し合いされ、職員も共有している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>職員は、家族の訪問時、積極的に話しかけ、希望、思い、意見を聞くようにしている。利用者のことだけでなく、家族の状況、心理状況なども聞くようにして、信頼関係を築くように努めている。家族からは、苦情、不満はあまり出ない。一年に一回、敬老の日に家族会を実施して、行事の後、家族に集まってもらって意見を出してもらっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、夏祭り、敬老会等の地域の行事に利用者と職員が参加している。地域の掃除には職員が交代で参加する。買い物に行くときには顔見知りになった近所の人と話をしたり、近くの友人が訪問してくれる事がある。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの「楽しくゆったりと、自分らしくありのままに…共に生き、暮らしの中に喜びと自信を…」という理念のもと、周りの四季折々の自然豊かな環境を利用者に触れてもらえるよう、支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は共有部分のよく見えるところに掲示し、介護方針を朝礼時に確認しあっている。管理者だけでなく、職員も理念を良く理解しており、利用者の尊厳を大切に、笑顔で接し、家庭的な雰囲気を保ちながら、支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、地域の掃除には職員が交代で参加している。利用者は自治会主催の夏祭り、敬老会に参加している。地域の民生委員の会議や「介護者のつどい」(学区社協、民生児童委員、女性の会等が開催)で、認知症について話をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全員で行い、ユニットごとにミーティングで討議して、まとめ上げた。全員で評価に取り組むことにより、日々の介護に活かすように取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、運営推進会議を開催している。議題は事前に配布し、運営推進会議後は議事録を作成して配布している。運営推進会議の内容をミーティングで職員が話し合い、日々のケアに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者には、利用者家族から寄せられた苦情、事業所としての困りごとなどを相談している。行政担当者とは一方的に指導される関係ではなく、お互いに話し合える関係づくりが出来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度、それぞれの利用者の担当職員が暮らしぶり、健康状態等日頃の様子を手紙に書いて写真と共に送付している。また、家族の訪問時に日頃の様子を報告しながら、積極的に家族の意向を聞くように努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、家族と何でも話し合える信頼関係づくりに努めている。一年に一回、敬老の日に家族会を実施しているが、毎年、多くの家族が参加してくれる。行事の後、家族に集まってもらって、家族会を開き、意見をもらうようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動は管理者の方針で、併設施設との異動、ユニット間の異動も行わないようにしている。そのため職員の異動はほとんどなく、開設当初からの職員もいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は全員に知らせる。受講後はミーティングで、内容を報告し、共有するように努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主導で始まったネットワークづくりは現在休止中であり、事業所としては同業者との交流はない。個人的な交流に任せている。	○	同業者との交流は、ケアサービスの質の向上、職員育成、ネットワークづくりや地域での連携を進めていく上で必要である。事業所として積極的に地域の同業者に働きかけて、また、行政とも連携してネットワーク作りに取り組んでほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用が始まる前に、利用者と家族に見学に来てもらい話し合っている。お試し利用は実施していない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生経験の豊富な利用者より家事、園芸等、様々なことを教えてもらうなかで、職員は「利用者」と「職員」という関係ではなく「人」と「人」との関係で支え合っているということを、日々の暮らしの中で実感している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者から思いや希望を聞き取ることは難しいが、生活の場での発言、会話からその思いや不満、不安を聞き出し、ミーティングでより良い支援のあり方を話し合っている。また、センター方式の一部を活用し、本人の思いを共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の発言や行動、職員の気づき等を記録した日々の記録を参考にして、1ヶ月に一回、ミーティングで話し合っている。家族からの希望、思いは訪問時に聞き出し、話し合いの時に参考にして、利用者主体の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には三ヶ月に一回、介護計画を見直している。また、状態に変化があった時は、臨機応変に状況に応じたケアが出来るようにその都度見直しをしている。介護計画の評価は職員全員で実施して、具体性のある介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を取っている医師が毎日、訪問して、利用者の様子を確認している。このことは利用者、家族にとって安心出来る生活につながっている。	○	墓参り等の特別な外出は家族が行っているが、中には利用者と関わりの少ない家族もある。そのような場合は、利用者の要望に応じて家族との仲立ちとなるような支援が期待される。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常の受診、健康管理は、協力医療機関において行っているが、利用者の状況が変化した場合や、特に心配な事がある場合は家族と相談のうえ、専門医を受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームでの看取りを希望される家族が多い。重度化した場合や終末期のあり方については、本人、家族から希望を聞き、職員全員で話し合い、グループホームで出来ること、出来ないことを見極めて支援している。医師や家族を交えて何度も話し合い、変化に備えて検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は「介護のプロ」であることを自覚し、利用者一人ひとりの尊厳を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけ、対応を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが、その人らしく、一番自然でいられるように、本人の希望やペースを大切にして、支援している。たとえ乱暴な言葉遣いの利用者がおられても、それもその人らしさと職員は受け止めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は支援が必要な利用者の隣に座り、さりげなく支援をしながら、一緒に同じ食事を食べていた。和やかな食事風景だった。料理の下準備、配膳、後片付けなど、それぞれの利用者が出来ることを一緒にしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	グループホームに浴室はあるが、利用者は全員、隣接したデイサービスの大浴場での入浴を好まれて、そちらを利用されている。入浴回数は週2～3回が原則であるが、本人の希望に沿って支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	貼り絵、刺し子、針仕事、ベランダでの園芸等、利用者一人ひとりが得意とされていることをしてもらい、職員も教えてもらいながら、一緒に楽しんでいる。また、食事の用意、後片付けなども職員が声かけをして、一緒にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一日中、利用者が屋内で過ごすことのないように、近くの公園などに出かけて、外の空気を吸ってもらうように支援している。スーパーへの買い物は1日2回、利用者も一緒に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠していない。外出願望の強い利用者の安全確保のために、状態に応じ一時的に昼間施錠することもあるが、職員が声かけをしたり、一緒に散歩に行くなどの対応で、出来る限り、施錠しないように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時対応マニュアルが掲示されている。また、消防署指導のもとで、夜間想定訓練を実施している。特に火災の場合の避難場所について、出火場所によってどこに避難すればよいかを消防署に指導してもらった。近くに住む職員がすぐに駆けつけられるよう連絡網を作成している。スプリンクラー設置を終えている。	○	職員の多くが近隣に住んでいるという安心感はあるが、災害時に職員だけの誘導には限界がある。地域の自衛消防や住民などとの連携を図りながら、災害時対策に関する理解を求め、避難および避難後の見守り等、協力体制を築いていくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は記録されている。献立はグループホームの職員が立てているが、栄養バランスを隣接しているデイサービスの栄養士に定期的にチェックしてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	階段のおどり場には利用者が作成した大作のちぎり絵が貼ってあった。2階からは広いベランダに、1階からは中庭に出ることができ、それぞれ、季節の花や作物が作られていた。南向きのベランダからの日差しはカーテンで調節されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具を置いたり、家族の写真を飾ったりして居心地よく過ごせる居室になっている。それぞれの利用者の個性が感じられる居室になっていた。		